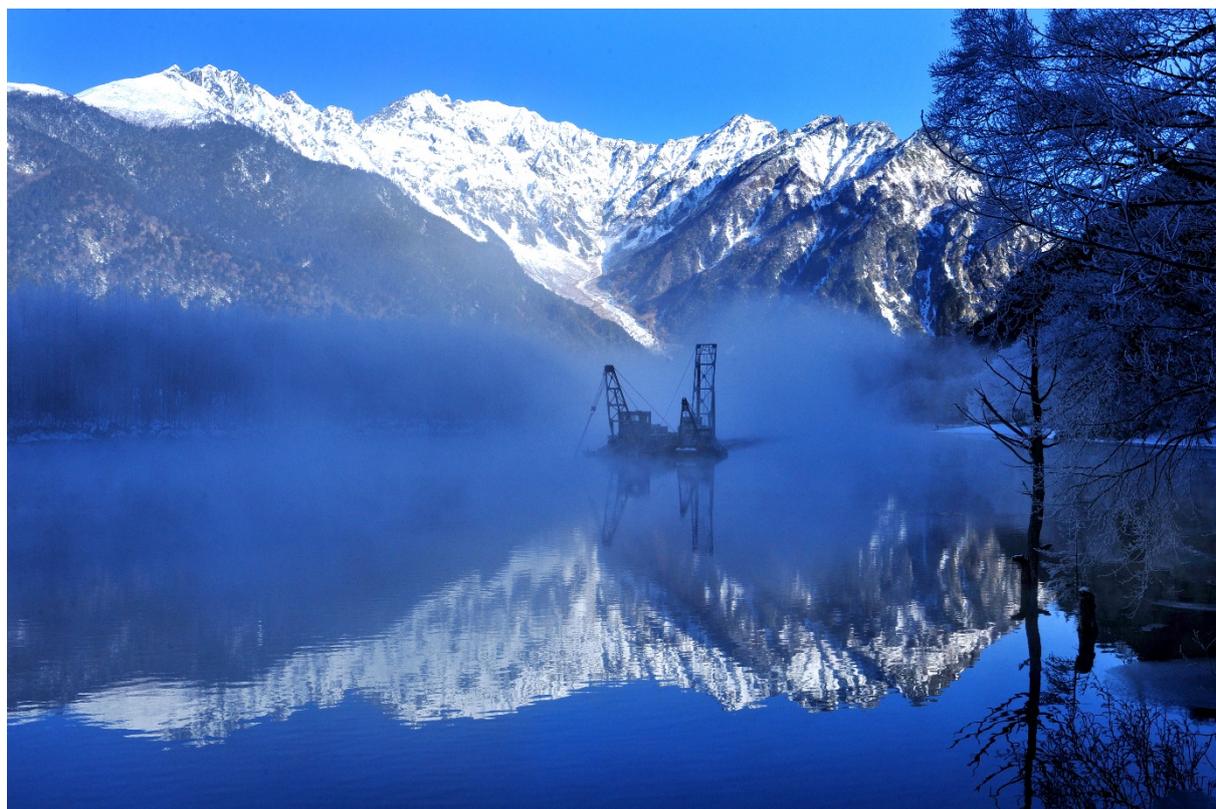


山岳友の会会報

2016年1月 第20号



朝霧に霞む大正池：さてこの構図から何が読み取れるのでしょうか（丸山祥司さん提供）

もくじ

2016年新年の抱負特集	2~7
・友の会会長 山口孝 「年頭の御挨拶」	
・友の会副会長 市川荘一 「やま・山・岳」	
・奥原仁作 「国民の祝日「山の日」によせて」	
・竹原文子 「新しい年に向かって」	
・松尾正徳 「山岳友の会への感謝」	
・ジャイアン 「下見の旅-乳頭温泉と秋田駒ヶ岳」	
第8回憧憬の森講演会・会員交流会 報告 小林久雄	7
釣りシノブの冬越し	8
編集後記	8

2016年 新年の抱負 特集

年頭の御挨拶

友の会の皆様、御健勝で初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年度も、友の会の行事に多くの皆様に御参加をいただき無事盛会に終了致しました。ありがとうございました。

その中の白山登山について少し書かせていただきます。

頂上(2773m)までの道のりは、とてもきれいに整備されており、昔ながらの霊山(奈良時代に開山)として、多くの信者が登っていたんだと実感しました。

泊まった室堂山荘の山小屋で地元ガイドの乾靖(イヌイヤスシ)さんに出会い、色々と話を聞きました。

「白山登山の90%は頂上往復で、頂上の向こう側に広がる花の松原というカール状の素晴らしい山域を誰も知らない。ぜひ多くの登山者に知って欲しい。花の松原は3コースの登山道があり、延べ70kmの道を毎年ひとりで草刈し、燃料軽減して作業する為、草刈機の刃はちょっとさわっただけで切れるようこまめに刃を研いでいる。ほとんどボランティアです。」と熱く語っていました。

こういう人が霊峰白山を守っているんだと強く感心しました。

さて、本年度は“乳頭温泉と秋田駒ヶ岳”を予定しております。2泊3日のバスツアーです。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

いよいよ、山の日第1回記念イベントが上高地で開催されます。個人的には自分が登るその日が毎回山の日と思っております。

皆様、今シーズンもどんどん山へ出かけましょう。



白山研修にて：右から山口会長、鈴木教授、島村さん

友の会会長 山口 孝

「やま・山・岳」

5年があっという間と言うか・・・知らんうちに過ぎてしまった。副会長をやれと鈴木教授に言われてから俺は何をやってきたのだろうか？何もやらずに又主だった行事に参加せずの副会長だった。

1つだけやり続けていることがあった。酒宴の席の乾杯音頭だ！！

6年目の抱負は「乾杯音頭の挨拶をもっとうまくなりたい」頑張ります。



酒沢談話会にて：上から時計回りで、小林さん、佐々木さん、佐藤さん、市川副会長、竹原さん

私の山歴は会員の皆様から比べると大変少ない。それはこんな理由です。

中学時代の恩師が「木村明男」(通称オコンジ先生)、芯からの山男でその奥さんは亡き「木村みどり」、カナディアンロッキーに憧れカナダ移住した二人です。その二人に中学三年間で北アルプスの多くの山に登らせてもらった。高校に入り山岳部に入ろうとしたら、爺さんに絶対反対をされ、そこで山と別れてしまった。同級生にアルプス北部救助隊長をやっている「降旗義道」がいる。彼が岩岳スキースクール校長時代も仲間であった。

爺さんの遺言は「跡取り息子は山に行くな」。しかし遺言はこの「信州大学山岳友の会」により破られてしまう。50年近くかかった。

「山はいいなあ——！山を好きな仲間はいいいなあ——」このことを若い世代に伝え育てるのが俺らの役目かな??と思うようになってきました。ちょっとおかしな例えですが、今建設業界は職人さん不足でジタバタしています。これは景気のせいではなく我らが職人さんを育てることをあなた任せでいたためです。山を好きになることは山を好きにさせなくていいですよ…それはキッカケ！！選ぶのは子供たちですがキッカケを一杯撒き散らかしておく。蒔き散らかすのはおいら達。そして食いつかせる。

友の会のメンバーは日本に誇れる人たちが一杯います。皆先生です。

友の会6年目はもっと子供に目を向けたい！

友の会の平均年齢を若返らせたい！！これを6年目の抱負といたします。

友の会副会長 いちかわ そういち

国民の祝日「山の日」によせて

今年から8月11日が「山の日」として国民の祝日となります。

なぜ8月11日になったのかは定かではありませんが、何はともあれ休みの日が増えたことはいずれも嬉しいような気がします。

山の日のご定義は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」とされています。この山の日のご意義が国民に広く浸透し、より多くの人々が山に愛着を持ち、山や自然と触れ合う機会がより多くなればよいと思います。

この制定を記念し、上高地において第1回記念全国大会が開催されることが決まっております、長野県と松本市で実行員会を組織して準備を進めています。

ところで上高地への入山者(環境省は公園利用者と言っています)は、ここ10年ほど右肩下がりで減り続けています。

2004年148万人だった利用者は、2015年(前年)には116万人まで減少しました。この要因として、自然災害による道路の通行止め、火山の噴火による風評、繁忙日における観光バス直接乗り入れの規制、高速バス事故による観光バス運行の厳格化などがあげられます。

また、利用者のおおよそ四分の一が外国人です。日本人利用者の減少を補ってもなお全体利用者は減り続けているのが現状です。

まずは、山の日の制定と予定されている一大イベントを機に、上高地利用者が増加することを期待したいと思っています。

さて、我が国土の約 7 割が山地であり、長野県にあつては 8 割に上ります。その中に上高地などの山岳景勝地が含まれるわけですが、ほとんどの地域は里山や、単なる森林地域なのです。

そうした普通の山の中に暮らしている人たちもまだまだいますが、ほぼ変わらず高齢化が進み、後継者は街に出ていき帰ってこないから子供もいなくなる、高齢者が亡くなって廃屋が増える。田畑は荒廢地と化し、山仕事をする人も技術も絶えて山は荒れ、そのうち地域の自治機能もままならず、固有の文化と伝統を持った山里は早晚消滅していく。そんな姿が近未来に見える、それも現実なのです。

水源地帯として国土を保全し、CO2 の固定や清浄な空気を供する公共財としての森林は、私たちの心の風景の原点でもあります。

山の日の制定でより多くの人々が、山でのレジャーやスポーツを楽しむことになるでしょう。出会いと触れ合いは山間地域の活性化に多少つながるかもしれませんが、でも、それで山里の生活や文化は継承できるのか、山に住み山に守られ守っていくこととは何なのか、問い直す機会にしたいものです。

山人 奥原 仁作

新しい年に向かって

みなさまのご協力のおかげで、2015 年の友の会の行事も楽しく有意義に催行できました。ありがとうございました。

来年度も変わらないご支援をお願いいたします。

来年度の行事に関して、二点考えたことがありました。

先日新聞で、福島の子どもたちのキャンプが先細りになっているとの記事を読みました。友の会の子どもキャンプの一番始まりは、東北の子どもたちでした。事情が変わってきてはいますが、もう一度福島の子どもたちに楽しんでもらえるキャンプができないものかと考えました。諸事情を考えると難しいかもしれませんが、まだまだ震災の傷跡は残り、子どもたちが思うように外遊びができない所もたくさんあります。

もう一点は、再度の王滝旅行です。こちらも御嶽の噴火の影響で、直下の王滝村は苦勞しています。もう一度木曾を訪ねてみなければと、常々思っていました。

みなさま如何でしょうか？

研修会も研修旅行も、たくさんの会員のみなさまの参加があつてこそ、楽しく奥深いものになります。来年度も大勢のみなさまのご参加をお待ちしています。

よろしく願いいたします。

竹原 文子

山岳友の会への感謝

「どちらまで・・」、漸く動き出した長い列を一瞬止められて、新島々の改札係にそう問われると「波田」、と声を詰まらせながらも駅名が云えたのは幸いであった。登山帰りが一様に松本を目指すなか、リックを背に二つ先の駅までの金額しか記されていない少額切符を差し出せば、キセル乗車と疑われても仕方なかった。

それは穂高の雄大な姿に見とれておでんを肴に缶ビールを飲んでいたら、大きなジョキを向かいの席にドンと置いて、その御仁は「素晴らしい景色・・」、そう話しかけてきた。互いがその日、北穂を往復して上の小屋で偶然おしるこを注文したと分かってから話が止まらなくなった。そして別れ際に蕎麦の話から帰りに是非、と教えられた駅が波田で蕎麦街道だった。駅で強引に荷物を置かせてもらい、駅前のタクシーを断って坂道を歩き出した。郵便局前で老人に道を確認しようとしたらまだ距離がある、同じ方向に戻るからと軽トラックに誘われ、松本平を見下ろす丘の店で降ろされた。蕎麦屋が何軒も点在していると聞いたのに、隣が野菜売り場でおかしいな・・とは、その際一瞬思った。

蕎麦を待つ間、たまたま新聞で地元行事や信州の山の話が面白くて、急ぐ帰りでもなかったのが係のご婦人に図書館など有るか尋ね、駅向こうの情報センターを教えられた。もしここで友の会の記事に接してなければ、これまでの行事への参加もなかったし、会社生活を終えての暮らしを想像すれば、雑踏にゆらり漂っていたのは確かであった。

最初の会報で友の会会長のお写真を拝見して、はて何処かで見覚えがとの思いは今は懐かしい。乗鞍で初めて経験したスノーシュー散策は童心を大きく掻き立てられたし、第2回エコの館「風の学舎」を訪ねた際は、昨年パリで決議された「COP21」の基準を遥かに先駆けた体験ではなかったか。翌日、山懐で30年もの歳月をクレーターと隕石探索に捧げた坂本先生に、挙句に立派な展示室まで立ち上げられてその開設式典に立ち会う荣誉にも接した。その後、暫くは何かにつけてこの時の話で盛り上がったものだ。

昨今は県外への素晴らしい山旅が毎年の行事となり、細やかな段取りや手配で毎回お世話頂いてる皆様を想って、旅が終わった松本からの帰路は車窓に流れる北アルプスの峰々へ感謝の心でいつも頭を垂れている(・・・つもり)。

もしあの日、情報センターで記事に接していなければ、もし軽トラであの丘に運ばれていなければ、もしあの日、あの御仁に是非にと蕎麦街道を紹介されなければ、今も横浜の寂しき門外漢であった。それを思えば、涸沢と上高地、北アルプスに信州大学、そして「山岳友の会」の魅力溢れる教授陣、講師の先生方とそこに集う多くの人と人、このご縁を大切に「友の会」に交わりこれからも見聞を広め多くを学んで参りたい。

なお、蕎麦街道が実はサラダ街道の丘陵からまだ先、唐沢蕎麦街道と知ったのはずっと後のことであった。

松尾 正徳(全研修参加者として)

下見の旅－乳頭温泉と秋田駒ヶ岳

おっさん一人での温泉旅行は寂しいものですね。11月に秋田市で用があったので、その帰りに、2016年度の友の会行事「乳頭温泉と秋田駒ヶ岳」の下見調査と決め込みました。秋田駅近くのホテルで目覚めたら雨でした。天気予報も雨です。しかし、レンタカーも乳頭温泉鶴の湯も予約済みなので、決行せざるをえません。新幹線「こまち」で田沢湖駅に向かいました。「こまち」は全席指定ですが、秋田県内の乗降のみは自由席の切符が買えます。が、何処が空席なのかわかりません。往路の「こまち」の混み具合から立ち席での1時間も覚悟しました。出発間際に乗って、空いている席に座ったのですが、早速予約客の登場。席を移動したのに、大曲でも指定席券を持ったおじさんが済まなさそうにこちらを見ている。次の角館で、今度はおばさんです。乗った車両の残り1席で、幸運にも何とか田沢湖駅まで着席できました。「こまち」は、東京から盛岡まではこれぞ新幹線というスピードですが、盛岡と秋田の間は在来線の線路間隔を広げただけなので、「あずさ」よりちょっと早いだけです。

田沢湖駅前でレンタカーを借りましたが土砂降りのままです。乳頭温泉鶴の湯の受付(チェックインという感じではない)は15時からなので、駅の案内所の地図で思案です。「白山と氷見」の下見は、Qさん・滝さんと一緒に、とても楽しい(呑みすぎの)旅でしたが、雨の中だと一人旅の寂しさが募ります。結局、久しぶりに角館の武家屋敷に行くことにしました。角館は雨にもかかわらず、大型バスの団体さんやアベック(死語かな?)で賑わっていました。紅葉の終わりの武家屋敷通りは、しっぽりと濡れてなかなか乙でした。通りからちょっと離れた食堂で「稲庭うどん」の昼食です。生ビールのポスターがあるのに、運転手一人ですからぐっと我慢です。



乳頭温泉鶴の湯



たつこ像

Uターンして田沢湖に向かいました。角館と田沢湖の間は「こまち」を入れると結局2往復しました。田沢湖に着いても、秋田駒ヶ岳はもちろん対岸さえ見えません。「晴れ男」って誰だったのでしょうかねえ。お決まりですから「たつこ像」の写真を撮って湖岸を一周。秋田駒ヶ岳への入り口を点検して(断続的な土砂降りの中では登ってみる気力が沸きませんでした)、いよいよ乳頭温泉へ。

乳頭温泉鶴の湯には30年前も行ったはずなのに、道すがらの記憶が戻りません。受付をして部屋に案内され、そこで囲炉裏を見てやっと記憶が戻りました。いよいよ露天風呂だ。が、待てよ。部屋に鍵がない。入り口の引き戸のそばに支え棒がある。これだと、中からは施錠できるが、外に出たら出入り自由となる。パソコンも持っているし、小銭もある。取り敢えず、貴重品とおぼしきものをサブザック

に入れて受付に行くと、部屋備え付けの封筒に入る財布などは明朝の帰りまで預かってもらえるが、それ以外は入浴の間だけ預かってくれるとのこと。さすが秘湯です。浴衣に着替えて、白湯、黒湯、中ノ湯、露天と温泉のフルコースを堪能しました。



囲炉裏でイワナを焼く超豪華夕食

部屋でビールを飲んでしていると、真っ赤な炭とイワナを持っておじさんがやってきました。写真のように、囲炉裏にイワナの串が1本だけという超豪華夕食です。話し相手もテレビもないので、酒瓶だけが順調に空いていきます。当然、インターネットもありません。ドコモは通じるようですが、ガラケーではどうしようもありません。文庫本を読ん

でいるうちに眠ってしまいました。夜遅くも明け方前からも温泉通いの音が聞こえましたが、ジャイアンは囲炉裏の心地よい暖かさでぐっすりでした。翌朝、温泉を巡り朝飯を頂いて、下見の旅は終わりました。

さて、鶴の湯で友の会の団体予約をするのがジャイアンの大きな役目のひとつでしたが、予約は6ヶ月前からしか受けられないとのこと、あえなく帰宅の途につきましたとき。

ジャイアン

第8回憧憬の森講演会・会員交流会報告

12月19日『信州フィールド科学賞受賞式と講演会』に、第8回友の会『憧憬の森講演会』酒井さんの「私はこんな海外登山をした」、そして恒例の『友の会の忘年会』が実施されました。

「森林生態系における根茎の物質循環に関する研究」では牧田直樹さんの表彰と講演がありました。地中の根系のCO₂排出など興味深い講演がありました。

引き続き、酒井さんより第三回の(海外編)についての講演がありました。それにしても長期に渡る海外登山の実績に感動します。

会場を「萬来」に移しての恒例の『忘年会』28名の参加で年間を振り返りつつ盛大に語り合いました。

友の会も五年目の活動を終えようとしています。「今までの活動を振り返り」新たな六年目に向けて、新しい希望に満ちた『友の会の活動』を皆で話し合ひましょう。

小林 久雄



◇6月20、21日 乗鞍ステーションでの【吊りシノブ講習会】参加の皆様へ◇

～秋から冬場のシノブ管理方法（概ね12月頃より）～

- ・ シノブの葉が黄色くなってきたらそろそろお皿に移して(風鈴を外し) 玄関など室内の管理に変更しましょう。
- ・ 水掛は時々状況を見て湿らす程度で管理しましょう。
(シノブは冬眠中です、あまりの湿り気はカビを発生させます)

※ 風鈴を外して陶器のお皿(使用しなくなった古いお皿など)に移し玄関などに置きましょう。



俳句や短い詩 お気に入りの一言を短冊に書き来夏も愉しみましょう。

♪ 『聞こえるか? すずり泣く子の 儂さや』 ひさお



表紙の写真：大正池は昨年出現100年を迎えました。当然のことのように流入する土砂により湖面は狭まり、水深は浅くなります。毎年上高地閉山のころから年末にかけて、この池を管理している東京電力によって堆積土砂の浚渫が行われています。奥にぼやっと見えるのが浚渫船、手前に伸びるパイプは排水パイプです。

編集後記

あっと間に5年の月日が過ぎました。友の会活動もいよいよ6年目です。

2016年は中央アルプス「千畳敷カール」や東北「乳頭温泉」などビックイベントも控え、更に発展の活動計画を予定していますが、ますます皆様の要望などご協力をよろしくお願い致します。

今までの活動を振り返りつつ、魅力ある活動に皆様のご意見をお願いします。Q

信州大学山岳友の会会報 第20号
発行日：2016年1月8日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp